ＩＳＳＮ 0285－4767

北海道考古学会だより

第　97　号
２０１０．７．１６

目　次

2010年度　北海道考古学会第47回総会略報……1
2010年度　北海道考古学会研究大会報告……5
遺跡見学会のご案内……6
研究会のお知らせ……7
事務連絡……7
会員の動向……7
入会者のお知らせ……7
会費納入についてのお願い……8
会誌編集委員会からのお知らせ……8
その他……8

2010年度　北海道考古学会第47回総会略報

４月24日(土)13時より北海道大学学術交流会館にて本年度の定期総会が開催されました。会員数358名に対して本人出席40名、委任状出席109名、合計149名と、総会成立の要件である会員数の３分の１以上の出席を得たため、総会は成立いたしました。議長には第３地区の氏江敏文会員を選出し、下記の議案について審議されました。

この結果、下記の原案どおり承認されましたので報告いたします。

第１号議案　2009年度会務報告

(1) 事業報告

ア　第46回総会・研究大会

期　日：2009年５月９日　　場　所：北海道大学　学術交流会館
総　会：2008年度会務報告、2009年度会務計画案（いずれも承認）
研究大会：テーマ「擦文文化研究における地域間交渉・交易」

イ　運営委員会

(回数)	(開催日)	(主たる議題)
第１回	５月９日	正副会長の互選
第２回	５月23日	担当委員の決定・遺跡見学会・月例研究会など
第３回	６月14日	遺跡見学会・ホームページ作成・だより・特別委員会の性格など
第４回	７月26日	遺跡見学会・月例研究会・特別委員会の活動など
第５回	９月27日	遺跡報告会・月例研究会・研究大会など
第６回	10月25日	遺跡報告会・研究大会・月例研究会・だよりなど
第７回	11月21日	遺跡報告会・研究大会など
第８回	１月24日	研究大会・月例研究会・だより・会誌など
第９回	２月28日	総会・研究大会・月例研究会など
第10回	３月27日	会誌・総会・研究大会など

ウ　月例研究会

第１回　期　日：７月26日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W309）
発表者：遠部慎氏（北海道大学）
テーマ：「北海道における炭素14年代測定試料の諸問題」

第２回　期　日：９月27日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W309）
発表者：守屋豊人氏（北海道大学）
テーマ：「縄文時代早期中葉における『アルトリ式土器』変遷観の検討」

第３回　期　日：10月25日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517）
発表者：北海道札幌稲北高校自然科学部
テーマ：「北海道指定史跡『西崎山環状列石』を構成する岩石とその由来について」

第４回　期　日：11月21日（北海道大学博物館中会議室）
発表者：内山幸子氏（東海大学）　　テーマ：「サハリンの動物考古学」
第５回　期　日：１月24日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517）
発表者：村本周三氏（総合研究大学院大学）
テーマ：「縄紋時代中期と後期の境界」
第６回　期　日：２月28日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517）
発表者：荒山千恵氏（北海道大学）　　テーマ：「出土木製品の製作技術について」
第７回　期　日：３月27日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517）
《考古学卒業論文・修士論文発表会》：初の試みとなる札幌近郊の考古学専攻をもつ大学・大学院の専攻生による発表です。
発表者：木村麻衣子氏・勢村茉莉子氏・山口響氏（以上、北海道大学）、
佐伯春輔氏（札幌学院大学）、今泉和也氏（北海道大学大学院）

エ　遺跡見学会

期　日：８月23日　　参加者：63名　　場　所：旭川市立博物館ほか
テーマ：アイヌ民族の歴史と文化にふれる

オ　遺跡調査報告会

期　日：12月19日　　場　所：北海道大学学術交流会館小講堂
内　容：道内遺跡の発掘調査の紹介・質疑
特別報告：A.I.レベジンツェフ氏（ロシア科学アカデミー北東総合科学研究所）
「初期鉄器時代の北西オホーツク海沿岸部における南部域との文化的関係について」

カ　連絡紙『北海道考古学会だより』の発行

94号：７月17日発行、95号：12月３日発行、96号：３月15日発行

キ　学会ホームページ

2009年６月30日リニューアル
2010年３月まで（９ヶ月間）アクセス数：約1800、更新回数：30回

ク　会誌編集委員会の活動

会誌『北海道考古学』第46輯の発行（2010年３月発行　500部）

ケ　特別委員会の活動

遺跡保護特別委員会、国際交流特別委員会

(2) 収支決算報告

収　入

項　目	費　目	予算額（A）	決算額（B）	増 ▲減	備　考
会　費	会　費	1,300,000	1,701,358	401,358	5,000円×339件、3,358×１件、1,500円×１件、1,000円×１件、500円×１件
事業収入	研究大会収入	120,000	134,000	14,000	研究大会資料集販売 134部×1,000円
	遺跡見学会収入	480,000	252,000	▲ 228,000	大人4,000円×63名＝252,000
	遺跡調査報告会収入	120,000	110,000	▲ 10,000	遺跡調査報告資料集販売 108部×1,000円
	会誌等販売収入	100,000	214,090	114,090	会誌・資料集販売
	小　計	820,000	710,090	▲ 109,910	
広告料収入		0	0	0	
雑　入		965	2,006	1,041	北洋銀行利息、2009年度遺跡報告会懇親会費徴収余剰金
繰越金		1,246,035	1,246,035	0	
基金繰入金	特別収入	0	0	0	
特会収入	特別会計収入	0	0	0	
合　計		3,367,000	3,659,489	292,489	

支　出

項　目	費　目	予算額（A）	決算額（B）	残(▲超過)額	備　考
事業支出	研究大会費	500,000	331,543	168,457	資料集印刷費、講師謝礼交通費等
	遺跡見学会費	300,000	192,765	107,235	貸し切りバス等・振込み手数料
	研究会費	20,000	0	20,000	
	遺跡調査報告会費	300,000	307,535	▲ 7,535	資料集印刷費、発表者謝礼交通費等
	会誌印刷費	1,200,000	1,036,840	163,160	第46号500部／振込み手数料
	だより印刷費	160,000	127,520	32,480	94号・95号・96号／振込み手数料
	ホームページ費	90,000	29,604	60,396	プロバイダー契約料、更新・維持管理費
	小　計	2,570,000	2,025,807	544,193	

事務支出	総会費	5,000	0	5,000	
	委員会費	30,000	24,000	6,000	
	消耗品費	50,000	21,840	28,160	文房具代等
	通信費	200,000	211,210	▲ 11,210	会誌・だより発送費、葉書切手封筒代等
	賃金	50,000	23,000	27,000	
	小　計	335,000	280,050	54,950	
特別支出		0	21,120	▲ 21,120	林謙作元委員長香典、会費返納、日本考古学協会図書交換会申し込み費用
予備費		462,000	0	462,000	
合　計		3,367,000	2,326,977	1,040,023	

2009年度決算

項　目	費　目	予算額(A)	決算額(B)	差引額(B−A)	備　考
	収入総計	3,367,000	3,659,489	292,489	
	支出総計	3,367,000	2,326,977	▲1,040,023	
決算額差引	収入総計(B)−支出総計(B)			1,332,512	

2009年度北海道考古学会基金会計

項　目	費　目	予算額	基金積立額	基金総額	備　考
基　金	名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000	
	佐藤氏斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
	北構保男氏寄付金		20,000	860,000	平成17年5月29日10,000円送金 平成18年3月22日10,000円入金
	宮下正司氏寄付金		10,000	870,000	平成20年度3月31日10,000円入金
	臨時積立金		200,000	1,070,000	
合　計				1,070,000	
過年度支出	南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金	77,000		993,000	2003年度支出
	鷲の木5遺跡保存対策費	160,000		833,000	2003年度支出
	鷲の木5遺跡保存対策費	60,000		773,000	
	40周年記念研究大会費	240,000		533,000	
合　計		537,000			
基金残高				533,000	

(3) 監査報告

北海道考古学会の2009年度会計の監査を実施した結果、適正に処理されていることを確認したので報告いたします。

2010年4月19日　監査委員　羽賀　憲二　㊞
2010年4月22日　監査委員　菊池　俊彦　㊞

第2号議案　2010年度会務計画

(1) 事業計画案

ア　基本方針

① 北海道考古学の発展のため、会誌の充実、大会・月例研究会・遺跡報告会・遺跡見学会などの積極的な開催を図る。

② 考古学研究を取り巻く環境が日々変化していく中で、諸課題に取り組むための「特別委員会」を設置するなど、研究環境の変化に機動的に対処しうる体制をとる。

③ だより・ホームページなどを通じて会の活動や研究成果を情報提供する。

④ 会費納入の呼びかけと適正な予算執行により、財務基盤の安定化を図る。

イ　2010年度事業計画

① 研究大会

期　日：2010年4月24日　　10：00-17：00
場　所：北海道大学学術交流会館講堂　　テーマ：「オホーツク文化とは何か」
基調講演：「オホーツク文化とは何か」天野哲也氏（北海道大学）
事例報告：臼杵勲氏・熊木俊朗氏・石田肇氏・増田隆一氏
討　論：司会　菊池俊彦氏

② 遺跡見学会

期　日：8月予定

③ **遺跡報告会**
期　日：2010年12月25日　　場　所：北海道大学学術交流会館

④ **月例研究会**
開　催：年９回
時　期：５月、６月、７月、９月、10月、11月、１月、２月、３月（予定）

⑤ **特別委員会の設置**
「遺跡保護特別委員会」、「国際交流特別委員会」

⑥ **会誌「北海道考古学」第47輯の発行**
発　行：年１回　　時　期：2011年３月　500部発行

⑦ **連絡誌「北海道考古学会だより」の発行**
発　行：年３回（第97号、第98号、第99号）　　時　期：７月、11月、３月

⑧ **ホームページの管理運営**

(2) 2010年度予算案

収　入

項　目	費　目	2010年度予算額(A)	2009年度決算額(B)	増 ▲減	備　考
会　費	会　費	1,300,000	1,701,358	▲ 401,358	資料集印刷費、講師謝礼交通費等
事業収入	研究大会収入	120,000	134,000	▲ 14,000	資料代 1,000円×120部
	遺跡見学会収入	400,000	252,000	148,000	4,000円×100名（貸切バス３台）
	遺跡調査報告会収入	120,000	110,000	10,000	報告資料集売り上げ 1,000円×120部
	会誌等販売収入	180,000	214,090	▲ 34,090	
	小　計	820,000	710,090	109,910	
広告料収入		0	0	0	
雑　入		488	2,006	▲ 1,518	
繰越金		1,332,512	1,246,035	86,477	
基金繰入金		0	0	0	
特会収入		0	0	0	
合　計		3,453,000	3,659,489	▲ 206,489	

支　出

項　目	費　目	2010年度予算額(A)	2009年度決算額(B)	増 ▲減	備　考
事業支出	研究大会費	500,000	331,543	168,457	要旨印刷・講師費用弁償、会場使用料等
	遺跡見学会費	300,000	192,765	107,235	貸し切りバス等／振込手数料
	研究会費	20,000	0	20,000	案内発送、研究会共催費
	遺跡調査報告会費	300,000	307,535	▲ 7,535	資料集印刷・発表者費用弁償、会場使用料等
	会誌印刷費	1,200,000	1,036,840	163,160	第47号500部／振込手数料
	だより印刷費	160,000	127,520	32,480	97号・98号・99号／振込手数料
	ホームページ費	50,000	29,604	20,396	プロバイダー契約料、更新・維持管理費
	小　計	2,530,000	2,025,807	504,193	
事務支出	総会費	5,000	0	5,000	
	委員会費	30,000	24,000	6,000	特別委員会費含む
	消耗品費	50,000	21,840	28,160	文房具代・封筒代・コピー代等
	通信費	200,000	211,210	▲ 11,210	会誌・だより発送費葉書切手代金等含む
	賃金	50,000	23,000	27,000	会誌・だより等の発送、その他事務処理
	小　計	335,000	280,050	54,950	
特別支出		20,000	21,120	▲ 1,120	
予備費		568,000	0	568,000	
合　計		3,453,000	2,326,977	1,126,023	

2010年度北海道考古学会基金会計

項　目	費　目	予算額	基金積立額	基金総額	備　考
基　金	名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000	
	佐藤氏斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
	北構保男氏寄付金		20,000	860,000	平成17年５月29日10,000円送金 平成18年３月22日10,000円入金
	宮下正司氏寄付金		10,000	870,000	平成20年３月31日10,000円入金
	臨時積立金		200,000	1,070,000	
合　計				1,070,000	

過年度支出	南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金	77,000		993,000	2003年度支出
	鷲の木5遺跡保存対策費	160,000		833,000	2003年度支出
	鷲の木5遺跡保存対策費	60,000		773,000	
	40周年記念研究大会費	240,000		533,000	
合　　計		537,000			
基　金　残　高				533,000	

平成22年度北海道考古学会研究大会報告

研究大会は平成22年4月24日、北海道大学学術交流会館2階講堂を会場として開催された。今大会は『オホーツク文化とは何か』をテーマに、5名の発表者による研究成果の発表と、その後のディスカッションが行われた。

基調講演「オホーツク文化とはなにか」において天野哲也氏は、5～13世紀に展開した文化が生業・集落形態・交易の面でいかなる特徴をもっていたかを概括し、サハリン南部における前期十和田式期から中期以降どのように発展しつつ南下・拡散をとげ、さらに変容と消滅したかに言及した。

ただし、オホーツク文化の形成過程、移動・拡散の要因などについては、サハリンの様相が不明瞭であることもあり、研究者間に少なからぬ見解の相違があることから、今大会の研究発表とディスカッションに期待したいとした。

臼杵勲氏は「アムール流域・サハリンとオホーツク文化」において、オホーツク文化はその斉一制が強調されることが多いが、実際は領域や文化要素の面で一貫する点がとらえにくいことを指摘した。その領域が分散・点在する前期に比べ、大きく拡大する中期では土器の器形・組成にも劇的な変化がみられるが、それは靺鞨系文化との関わりを示すものであり、背景に各地の集団の靺鞨系集団との意図的な関係強化があったのではなかったかと指摘した。後期には交易の減少など、その関係が緩やかになり、各集団本来の地域色を強めることとなったことが、サハリンや北海道における多様な地域性をうながしたと考えを提起した。

斉一制が指摘されることの多いオホーツク文化が地域的・時間的に多様な要素から成っており、それは周辺地域との関連性の有無や強弱を反映している可能性が高く、今後の研究はこの点に視座をすえることが必要との展望を示した。

「北海道東部のオホーツク文化集落について―最近の調査成果から―」の発表を行った熊木俊朗氏は、網走市最寄貝塚と北見市トコロチャシ跡遺跡および同遺跡オホーツク地点の大規模な調査の成果をもとに、道東部における刻文期から貼付文期の住居と墓制の地域差、時期差について検討を行った。

オホーツク文化では住居の建て替えが特徴的であるが、入れ子状や重層、拡張などいくつかのパターンが読み取れる。十和田式期では建て替え例は僅少で、刻文期から沈線文期ではいく例かがみられるが、そこに何らかの傾向は読み取れない。貼付文期では入れ子状縮小・重層・拡張・建て替えなしなどすべての例があるが特定のパターンは読み取れないという。むしろ遺跡ごとに建て替えのあり方に差があり、時期を超えて踏襲されているのではないか、それは拠点的集落とそうでない集落という性格の違いに起因している可能性があることを指摘した。

最寄貝塚にみられる住居と墓の数の不均衡は、当遺跡が他の集落の構成員も埋葬する場であったのではないか。墓の配置は時期ごとのまとまりが看取されず、刻文期から貼付文期まで一定した利用のあり方が維持されたらしいと推測した。

「オホーツク文化人骨の形態特徴と生活誌復元」をテーマとした石田　肇氏は、1980年代以降オホーツク文化人骨の出土が増加し、各地で幅広い年齢層の資料が得られたことにより、オホーツク文化人の形態の把握と時期差・地域間の比較研究、アイヌ集団へのオホーツク文化集団の影響などに迫ることが可能となったとし、その成果の一部を紹介した。

形態学の分野では、頭蓋骨の形態小変異の分析研究から、サハリンやオホーツク海沿岸域のアイヌに北東アジア地域に由来するオホーツク文化人の形質的影響があることがわかった。また、骨に残る変形や病変の所見より、当時の生業活動など日常的な作業・行動のあり方を復元することが可能となり、考古学資料とのクロスチェックをもとにオホーツク文化人の生活誌をより詳細に解明できる見通しをもつことがきるようになったとした。

また、安定同位体分析によって食生活を復元し、北海道北部と東部では摂取した動物性タンパク質の内容が異なっていた可能性が示唆され、これまでの貝塚の発掘調査から得られた当時の食のメニューを再考する必要性が提起された。

増田隆一氏は「遺伝子からみたオホーツク文化人の特徴と起源」をテーマに、ミトコンドリアＤＮＡの分析研究から明らかになった成果を発表した。オホーツク文化人78体から得られた遺伝情報を16タイプに分類したが、10タイプがニブフやウリチなどの現代アジア集団と共有することが判明した。また、5タイプがアイヌの16％に共有されており、オホーツク文化人とアイヌが遺伝的に関連する部分がある

ことが明らかとなった。このことより、オホーツク文化人が現在アムール川下流域に居住する集団に遺伝的に近く、またこの集団からオホーツク文化人を介してアイヌへの遺伝子流動があったらしいことが推測された。

さらに、北海道縄文人にないハプロタイプYがアイヌに認められ、オホーツク文化人と現アムール川下流域の集団に高頻度であることより、ここでも北方集団からアイヌへの遺伝子流動の可能性が高まったという。

今後、サハリンやアムール川下流域、沿海地方の古代人の遺伝子比較分析によって、以上の成果をさらに検証する必要があることを強調した。

その後のディスカッションは、菊池俊彦氏を司会に進められた。靺鞨文化がオホーツク文化に影響を与えたというが、アムール川下流域では靺鞨文化が認められない。形質人類や遺伝子分析によって、オホーツク文化人はウリチやナナイなどのバイカル型モンゴロイドに近いとされたが、オホーツク式土器が鞨系文化との関連を示唆する器形や組成をもつ点とは矛盾するのではないか。道北からオホーツク海沿岸や道東域に分布を拡大したのは人口爆発が要因とされるが、前期末における人口の急増は想定しにくいのではないか。最寄貝塚における蕨手刀の大量の出土の意味するものは何か。オホーツク文化人はなぜ千島列島に進出したのか、海獣狩猟（ラッコ猟）のためか。日本海地域への進出はなぜ島づたいだったのか、沿岸は続縄文人の領域だったからか。など、あらためて多くの疑問点、問題点が提起され、今後の研究課題として再認識された。

道民カレッジ連携講座でもあった今回の研究大会は、多くの聴講者が参加して午前10時から午後５時まで興味ある研究発表と白熱した討論に終始した。

遺　跡　見　学　会

毎年恒例の遺跡見学会、今年度は「縄文文化にふれる道南の旅」をテーマとして、１泊２日で函館市・木古内町の遺跡・博物館を巡る計画で準備中です。国宝土偶や世界遺産登録で話題となっている道南の縄文文化にふれる絶好の機会です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

期　　日　８月21・22日（土・日）、１泊２日　雨天決行

集合場所　札幌駅北口（観光バス乗り場）　集合時間８：00

見学コース　８月21日（土）
ＪＲ札幌駅北口（８：00）⇒（道央自動車道）落部ＩＣ⇒（昼食）⇒大船遺跡（函館市）：遺跡・展示見学 ⇒ 市立函館博物館：展示見学 ⇒ 宿泊（湯ノ川温泉、朝夕２食付）
８月22日（日）
湯ノ川温泉（９：00）⇒ 大平１遺跡（木古内町）：発掘現場見学（調査機関：北海道埋蔵文化財センター、縄文時代前期の盛土遺構）⇒ 木古内１遺跡（木古内町）：発掘現場見学（調査機関：北海道埋蔵文化財センター、擦文文化期の集落跡）⇒（昼食）⇒ 七飯町歴史館（七飯町）：展示見学 ⇒ 落部ＩＣ（道央自動車道）⇒ ＪＲ札幌駅（19時頃到着予定）
※なお、天候・道路・現場の状況により行程を変更する場合がございます。ご了承ください。

参加費用　大人20,000円、小学生以下16,000円（バス代、保険料、入館料、宿泊費、食事代込み）

募集人数　先着順40名、最低催行人数30名
（若干の追加の可能性もございますが、補助席となります。ご了承ください。）

申込方法　往復葉書かメールで。**電話受付は致しません。**
①往復葉書の場合
＜往信部表面＞　〒060-0810　札幌市北区北10条西７丁目
北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座小杉研究室気付
北海道考古学会事務局
＜往信部裏面＞　郵便番号、住所、氏名（同行者名も）、自宅電話番号、携帯電話番号を記入。
＜返信部表面＞　返信用の郵便番号・住所・氏名
＜返信部裏面＞　何も記入しないでください。
②メールの場合
hokkaidokoukogakkai@m9.dion.ne.jpに郵便番号、住所、氏名（同行者名も）、自宅電話番号、携帯電話番号を記入し、送信してください。

※宿泊（部屋割や３人以下で１室を希望等）について、ご希望がある場合はご記入ください。なお、３人以下で１室を希望する場合、追加料金をいただくことになります。また、参加費用の支払い先・支払い期限、キャンセルのお問い合わせ先については、お申込み後にお知らせいたします。

申 込 期 限　８月６日(金)必着。なお、８月13日(金)以降のキャンセルについては、キャンセル料が発生いたしますので、ご注意ください。

問い合せ先　**平日の18：00～20：00のみ。**
見学会担当：芝田（090-9087-6802）、小針（090-7076-8964）まで。

服装・お持ちいただくもの
雨具は持参してください。また、歩きやすい服装・靴でお越しください。その他、帽子、常備薬、虫よけ、筆記用具などお持ちいただくことをお勧めいたします。

定例研究会のお知らせ

【報告】
第１回定例研究会
○日　時：５月30日(日)　15：30～17：30　　○場　所：北海道大学総合博物館共同利用研究室
○発表者：高橋　理（千歳市埋蔵文化財センター）　　○テーマ：出土動物からみるアイヌの儀礼
第２回定例研究会
○日　時：６月27日(日)　15：30～17：00
○場　所：北海道大学人文社会科学総合教育研究棟W104号室
○発表者：鈴木　健治氏（北海道大学）
○テーマ：旧石器時代における住居構造の復元に関する基礎的研究

【今後の予定】
第３回定例研究会
○日　時：７月25日(日)　15：30～　　○場　所：江別市郷土資料館(江別市緑町西１丁目38番地)
○発表者：佐藤　一志氏（江別市郷土資料館）
○テーマ：戦前における江別市内の発掘調査資料―江別市郷土資料館特別展から―
○内　容：江別市内では昭和６年頃より、河野広道氏・後藤寿一氏・名取武光氏などが発掘調査を行い、当時出土した資料は、江別市を離れ旭川市博物館や北海道大学植物園博物館などに所蔵されている。現在開催している当資料館特別展では、その資料の一部（主に後北式土器）を所蔵先から借用し展示している。これらの資料については、発表者も詳細を把握しておらず今後の課題としたいが、本特別展を機に戦前発見された江別市出土遺物について紹介したい。
第４回定例研究会（９月）
○発表者：榊田　朋広氏（札幌市埋蔵文化財センター）
○テーマ：トビニタイ式土器研究の現状と課題
※場所、日時などの詳細は決まり次第、ＨＰ等でお知らせします。

※会員の皆様で、月例会での研究発表を希望する方は研究会担当運営委員（高橋・佐藤）までご一報ください。

会員の動向

訃　報

本会の委員長（現会長職）として、長きにわたり北海道の考古学界を牽引された林謙作先生（元北海道大学教授）が2010年３月15日、72歳にて天寿を全うされました。３月17日、会長小杉、副会長越田、総務高倉の３名で式に参列いたしました。ご冥福をお祈り申し上げます。

入会者のお知らせ

≪新入会員≫※五十音別・敬称略
岡村　聡（石狩郡当別町）　小野　有五（札幌市）　佐々木　征一（札幌市）　高橋　祐（札幌市）

村田　一貴（江別市）
※退会者については、個人情報保護のため掲載を控えています。

会費納入についてのお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認した後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770－６－8358　加入者名：北海道考古学会
年会費：（一般）5,000円　　（学生）3,500円

会誌編集委員会からのお知らせ

会誌第47輯の原稿を募集しています

会誌編集委員会では、会誌第47輯で「北海道考古学における縄文文化の研究―その成果と課題―」（仮題）をテーマとした特集を組む予定です（詳細は後程ＨＰに掲載します）。今回の特集原稿については、一般の方々からの公募といたしますので、積極的なご投稿をお待ちしております。このほか、特集以外の一般原稿も募集しています。なお、原稿の締め切りは以下のとおりですが、編集の都合上、特集を含めて投稿される方は、11月19日（金）までに会誌編集委員会事務局まで事前に連絡をお願いいたします。原稿の分量・体裁等は、『北海道考古学会だより』第95号（2009.12.3）及びＨＰをご参照ください。

原稿締め切り　2010年12月25日（土）（必着）
会誌編集委員会事務局　〒062-8605　札幌市豊平区旭町４丁目１-40
北海学園大学人文学部　手塚研究室

【会則・規則類例集の誤植訂正】

『北海道考古学会会員名簿　2007年度版』
北海道考古学会会則・規則類例集
3-2　北海道考古学会会誌編集委員会設置要綱（52頁）
１．設置
訂正前）会則第３条(2)のロに規定する……
↓
訂正後）会則第４条(2)に規定する……

訂正前）会則第５条の２の(5)の規定に基づき、……
↓
訂正後）会則第９条３の規定に基づき……

【特別委員会について】

今年度特別委員会について以下のように決定しましたのでご報告致します。

遺跡保護特別委員会　委員長　臼杵　勲　　２号委員　宗像公司
国際交流特別委員会　委員長　天野哲也　　２号委員　坂梨夏代

北海道考古学会だより　　第97号　　2010年７月16日　発行
発行所　北海道考古学会（HP：http：//www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局；〒060-0810　札幌市北区北10条西７丁目
北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座　小杉研究室気付
TEL/FAX（011）706-4000
E-mail；hokkaidokoukogakkai@m9.dion.ne.jp
印　刷　北海道図書企画　（011）668－1131